

B分科会では「魅力的な図書館づくりを考える」というテーマで、本を選ぶときの参考となるブックリストの作成、図書館内の掲示の工夫、読書推進活動という3つの方向から発表が行われた。また会場には掲示グループによって実践された掲示物が展示され、障子紙を染めた花びらで紫陽花の花を作るという体験コーナーも設けられた。

◇発表内容◇

B-1分科会

■ ブックリスト～本を探すのが苦手な子どもたちへ～ ■

(津山市立中道中学校 司書 富澤知子)

リスト作成のきっかけ・作成方法・アンケート結果から見た効果の分析について発表がなされた。

小学校では子どもたちよりも教員側の利用が多いことから司書と教員との連携、教員から子どもたちへの働きかけや提供の工夫が課題として残ったこと、リストをもとに本の帯を作って掲示に利用したところ子どもたちに好評であったこと、中学校では子どもたちが自分たちの紹介したい本の紹介文を作るといった広がりが見られたこと、などが報告された。

B-2分科会

■ 子どもたちをひきつける掲示～彩りのある図書館～ ■

(津山市立河辺小学校 司書 安東友見)

子どもたちにもっと図書館に足を運んで欲しい、少しずつ季節感の薄らいでいる中で子どもたちに季節を感じてもらい、同時にホッとできる空間を提供したいという思いから、各校で工夫された掲示物が季節ごとにあるいはテーマごとにプロジェクターで紹介された。

その中から、障子紙を染めた紫陽花・モビール・画用紙で作る立体クリスマスツリー・発泡スチロールを使ったオブジェについて、作り方が紹介された。

また、クリスマスツリーの型紙と障子紙を染めて作った紫陽花のパーツが準備され、体験コーナーが設けられた。



B-3分科会

■ 読書推進活動～津山市学校図書館の取り組み～ ■

(津山市立佐良山小学校 司書 井上美恵子)

まず合併により36校となった小・中学校へのアンケートを行い、学校での働きかけ・家庭への働きかけ・読書ボランティアの実態について、結果報告がなされた。

その後、発表者の勤務校である佐良山小学校での取り組みと実践報告がなされた。『1年間に100冊読もう』を目標に学校全体として読書活動に力を入れている佐良山小学校では市立図書館の移動図書館ぶっくまるの活用、委員会の活動、高学年への本の紹介やブックトーク等を通して、図書館の利用貸し出し冊数が大きく増加したことが報告された。

◇質疑応答◇

Q. 佐良山小学校の図書館目標「１年間に１００冊読もう」の１００冊とは、図書館で借りた本かそれとも家庭での本も含むのか？また、その目標に対して家庭からは疑問視する声があったということだが、教員からは意見は出なかったのか？

図書館で借りた本を１００冊ということである。図書館目標に対しては教員から特に意見は出なかった。「中道中学校で、子ども達が本の紹介カードを書く際に無記名であったこと、子どもが書いたものをパソコンで打ち直して紹介したところはよかったのではないかと思う。以前よく行われていた読書郵便なども名前が出るといったプライバシーの問題から、岡山市ではやめているところが多い。」といった意見・感想も述べられた。

Q. 佐良山小学校について、図書委員会が１～２年生に読み聞かせをしているのはどんな時間帯か？教員から子どもたちへの読書奨励の方法とはどんな内容か？８月の貸出数が落ち込んでいたが夏休み中の開館日はどのくらいあるのか？

委員会の子どもたちは１０分間の朝読の時間を利用して活動している。また子どもたちへの読書推進の奨励方法としては、校長・司書教諭・司書が全校集会を利用して呼びかけをする、学校だよりを利用しての家庭への働きかけ、図書館の時間の確保などが行われた。夏休み中は１０日間の開館日を設けているが、昨今の子どもを取り巻く状況から、友だち同士複数での登校や低学年では家族同伴の登校を呼びかけているため、利用できにくい状況がある。

【B分科会 参加者数 １０４名】